

◆アストロデザイン：東北映像フェスティバル 2024 に出展



31日(金)に仙台国際センター 展示棟で開催される「東北映像フェスティバル 2024」映像機器展に出展。

主な出展製品

・ST 2110 対応オーディオモニタ AM-3829



SMPTE ST 2110-30に対応した新しいオーディオモニタ。

SDI、MADI、AES、アナログインターフェースを搭載し、あらゆるシーンでの音声信号監視を実現します。音声のIPゲートウェイとしても使用可能。

・SRT 伝送装置 TR-5004



SRT プロトコルによる HD 映像の伝送に対応した伝送装置。コミュニケーションのための送り返し、リターン、タリー、カメラ制御信号の伝送に対応し、円滑なライブ制作を実現。

AVC/HEVC ハードウェアコーデックを搭載している。

・TS マルチプレクサ CX-5548A/CX-5548A-HF



Standard MUX、EasyMUX、TS over IP の 3 つのオプションを選択して機能を拡張できる

TS マルチプレクサ。

1U サイズ・電源二重化対応の CX-5548A と、1U ハーフサイズの CX-5548A-HF をラインナップ。

展示会の概要

「東北映像フェスティバル 2024」映像機器展

会期 2024年5月30日(木)・31日(金) 10:00～17:00

会場 仙台国際センター 展示棟

主催 一般社団法人 東北映像製作社協会

公式サイト <https://tohoku-eizofes.jp/>

【製品に関するお問い合わせ先】

アストロデザイン株式会社

本社(営業) TEL: 03-5734-6301

京都オフィス TEL: 075-746-5605

<https://www.astrodesign.co.jp/contact.htm>

アストロデザイン株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長:鈴木茂昭)は、2024年5月30日(木)・



◆ケンコープロフェッショナルイメージング：ARCA-SWISS 各プレートに対応したクイックシューベース「クイックセットデバイス」販売開始

株式会社ケンコープロフェッショナルイメージング(代表取締役社長:山中徹)は、ARCA-AWISS(アルカスイス)のカメラプレート各タイプに対応したクイックシューベース「クイックセットデバイス」3種を2024年5月10日より販売。

左からモノボールフィックス、クイック、フリップロックの各仕様。

■製品特徴

ARCA-SWISS(アルカスイス)のカメラプレートに対応したクイックシューベースです。3種のアタッチメント形状(モノボールフィックス/クイック/フリップロック)をラインアップしています。また1/4、3/8ネジ仕様になっており、ほとんどの雲台に取り付け可能。

●モノボールフィックス:アルカスイスの新規格であるモノボールフィックスタイプのカメラプレートおよびLブラケット専用です。自動閉鎖機構(落下防止)を装備するなど、より安全な運用が可能となっています。

●クイック:ノブ部を回転させるシンプル操作で、カメラプレートやLブラケットを固定することができます。定番のアルカスイス規格であるクラシックタイプのプレートおよび新規格であるモノボールフィックスタイプのプレート(Lブラケット)を取り付け可能です。

●フリップロック:二重のレバー仕様になっており、安全かつ素早くカメラプレートやLブラケットを固定することができます。クラシックタイプ、モノボールフィックスタイプ、いずれのプレート(Lブラケット)もご使用いただけます。



■仕様

| | モノボールフィックス | クイック | フリップロック |
|--------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| サイズ/重量 | 60 × 60 × 15mm / 80g | 68 × 72 × 20mm / 98g | 68 × 62 × 20mm / 100g |
| 対応プレート | モノボールフィックス | クラシック/モノボールフィックス | クラシック/モノボールフィックス |
| ネジ穴仕様 | 1/4および3/8インチ | 1/4および3/8インチ | 1/4および3/8インチ |

■商品名・価格(税別)・JANコード

ARCA-SWISS「クイックセットデバイス」モノボールフィックス 22,000円 4961360089950

ARCA-SWISS「クイックセットデバイス」クイック 27,000円 4961360089936

ARCA-SWISS「クイックセットデバイス」フリップロック 32,200円 4961360089943

■販売開始:2024年5月10日

問い合わせ先:株式会社ケンコープロフェッショナルイメージング

〒164-0001 東京都中野区中野 5-68-10 KT 中野ビル 3F

TEL 03-6840-3622 FAX 03-6840-3861

URL: <https://www.kenko-pi.co.jp>

◆ゼンハイザー：開放型ヘッドホンHD600シリーズを発売



融合

開放型ヘッドホンへの絶え間ない向上の結果、世界中で『ニュートラルなサウンド』の代名詞の一つに挙げられるゼンハイザーのHD 600シリーズ、そしてユーザーを楽曲の世界に誘うサウンドステージを実現したHD 500シリーズ、この二つのDNAを融合したHD 620Sは密閉型でありながらナチュラルで広大なサウンドステージを実現。周囲のノイズをカットして上質なサウンドだけを届けるヘッドホンは音楽やゲーミングなど様々な用途で高いパフォーマンスを発揮する新たな一台。

ナチュラルで広大な上質サウンドに包まれる

アイルランドのファクトリーで製造するリファレンスレベルの高品質なゼンハイザーの42mmトランスデューサー、そしてその根幹となる部分である振動板にはHD 660S2と同様のラミネート加工を施したDuo-Folテクノロジーの振動板を採用。全帯域で歪みを最小限に抑え高解像度のサウンドをお届けします。臨場感溢れるボーカル、重厚でありながらバランスの取れた低域、密閉型とは思えないほど広大な空間でナチュラルなサウンドを再現。周囲のノイズを遮断しながら優れたサウンドに包まれます。

HD 660S2の技術で柔軟性のある振動板

HD 660S2の技術を活用し振動板には柔軟性をもたらすことによりクリーンで豊かな低域を創出。またボイスコイルには銅線のコイルの半分の重量である超軽量のアルミコイルを採用することにより、繊細な高域の描写力の基盤を築いています。密閉型であっても淀みのない高域の再現に妥協はありません。

そぎ落として最適化するインパルスレスポンス

通常、ゼンハイザーのヘッドホンは振動板周辺の後ろにダンピング用の素材を配置することが多いのですが、HD 620Sに関してはその素材をあしらうことなく仕上げた唯一のヘッドホンです。これによりトランスデューサーの動きにさらなる自由とスピードを与え、インパルスレスポンスやサウンドのニュアンスにおける描写力を創出。

アコースティックフォーム

さらにドライバーの背面のバックプレートにアコースティックフォームを配置することにより、音の反射を吸収して密閉型で失われがちな音の純度を生み出しています。

純度の高いサウンドを伝えるバッフル

トランスデューサーの前方に位置するバッフルは透明でオープンなものを採用。ドライバーと耳の間の隔たりを最小限にすることでピュアなサウンドを最大限にダイレクトにお届けすることができます。

す。これにより本来の音をそのまましっかりと伝えることができます。また振動板の一貫した高いパフォーマンスを支えています。ホールを施したアコースティックフォームのイヤークッションには細かいホールを施したアコースティックフォームを採用ししなやかな仕上がりを実感いただけます。さらにこのイヤークッションはフロントボリュームでの音の内部反射を吸収し開放型のような性質をもたらします。

パノラマ空間を創り出すアングルトランスデューサー

またトランスデューサーを角度を付けて配置することで、まとまりがありパノラマのようなサウンド空間を演出。



グラフが物語る密閉型のナチュラルなサウンド

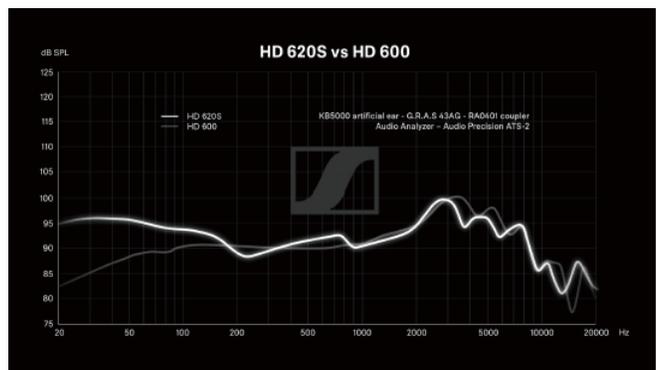
下記のグラフはHD 620SとHD 600の周波数帯域を比較したものです（ホワイトがHD 620S、グレーがHD 600）。様々なこだわりと技術を搭載したHD 620Sは周波数グラフにも表れています。

HD 600のような原音忠実再生

全体としてはニュートラルで原音再生として高い支持を得るHD 600に近い周波数グラフとなっています。

一方で最も大きな違いの一つは100Hz以下の低域に見ることができます。HD 600は現代のユーザーからは比較的low域のレスポンスを指摘されるフィードバックがありますが、HD 620Sは密閉型ヘッドホンであるため、この部分は大幅に向上しています。

そして最も特筆すべきは4,000Hz以上の帯域です。多くの密閉型ヘッドホンは繊細な高域が描けない、または偏った周波数帯域になることが多いのですが、HD 600と同様にHD 620Sは圧倒的に滑らかな高域を実現しました。繊細な高域部分を描き、耳に刺さりにくい仕上がりになっています。



※ドイツ本社で測定したHD 620SとHD 600の周波数帯域グラフ

商品名：HD 620S

発売日：2024年6月6日

価格：オープンプライス

店頭想定価格：57,500円（税抜き）63,250円（税込み）

◆ブラックマジックデザイン：イェール大学の CCAM が、クリエイティブ性の養成に Blackmagic Design を使用



465 平方メートルの敷地面積を持つイェール大学の CCAM (Center for Collaborative Arts and Media) は、クリエイティブなプロジェクトを生み出し、実験的な技術ワークフローを開発する学際的なアート・テクノロジーセンターであり、そのプロジェクトの多くは動画の理論と実践に基づいている。

CCMA は、スタジオ・フェローシップ、シンポジウム、ワークショップ、その他年間を通して継続的に行われるプログラムやイベントを通じて、同大学のコミュニティと関わっている。カリキュラムは、映像分野を含む、大学全体のクリエイティブな分野における様々なコースが集められている。

CCMA の撮影機材には、Blackmagic Pocket Cinema Camera 6K Pro および Blackmagic Pocket Cinema Camera 4K デジタルフィルムカメラ、Blackmagic Video Assist 12G 7" HDR モニター/レコーダー、編集、グレーディング、ビジュアルエフェクト (VFX)、オーディオポストプロダクション・ソフトウェアである DaVinci Resolve Studio、そして Blackmagic Cloud など、Blackmagic Design の様々な機材が採用されており、教職員や学生たちが使用している。



これらの機材は、公式のプログラム、授業、トレーニングなどで使用されており、無償で貸りることも可能だ。学生たちは卒業制作や授業のプロジェクトにおいて、短編映画、ドキュメンタリー、ミュージックビデオ、パフォーマンスの記録、そして CCAM Leeds Studio に設置された Vicon Motion Capture System などの映画技術の最先端を行く実験に機材を使用している。

Blackmagic Design カメラは、スキルレベルや学部、プロジェクトに関係なく柔軟に使用できる。学生や教職員たちは、コンパクト

で信頼性が高く、シネマ品質の画が撮れるカメラに満足している。使い勝手が良いことから、長編映画の撮影など、様々なプロジェクトで使用されており、様々なレンズや内蔵 ND フィルターを使用できることが重宝されているという。

Blackmagic RAW で撮影すれば、DaVinci Resolve Studio のシームレスなワークフローと Blackmagic Cloud コラボレーションにより、ポストポストプロダクションでカメラのシネマライクなイメージを最大限に活用できる。CCAM のラボにはこのソフトウェアが備わっており、イベントの記録や、資金調達用の研究プロジェクトを紹介する短いビデオの作成にも使われている。



イェール大学では、毎学期の初めに、CCAM チームと協力者が講師を務める学際的なクリエイティブ・ワークショップの 1 日イベント、「C-CAMP」が、CCAM により開催される。これまで、モーショントラッキング、プロジェクション・マッピング、映像編集などのワークショップが行われてきたが、CCAMP で最も人気のあるセッションのひとつが、Blackmagic Design ワークショップである。このワークショップでは、学生たちが Blackmagic カメラを使って短いドキュメンタリーを撮影する方法を学ぶ。

Blackmagic Design 製品は、授業やプロジェクト、ワークショップの中心となっている一方で、CCAM の舞台裏でも使用されている。当初は、コロナ禍の制限から戻ったハイブリッドの教育環境の教員をサポートするために ATEM Mini Pro ライブプロダクションスイッチャーを導入したが、現在では、Blackmagic Design のカメラとともに、様々な CCAM イベントの撮影、制作、配信に使用されている。

Blackmagic Design のカメラと DaVinci Resolve Studio は、映画の実験やデモンストレーションに使用されるだけでなく、主要なプロジェクトから生まれたドキュメンタリーにも使用されており、そのすべてが CCAM シンポジウムで上映される。また、カメラと ATEM Mini Pro は、マルチカム撮影やライブプロダクションワークフローにも使用されている。



www.blackmagicdesign.com/jp

◆ NHK : 「NHK Tech EXPO 2024」 と 「技研公開 2024」 を開催

NHK は 2024 年 5 月の最終週、一般公開イベント「NHK Tech EXPO 2024」と「技研公開 2024」を開催します。どちらも事前予約無しで、どなたも自由に入場できる。

NHK Tech EXPO 2024

開催期間：5月27日(月)～29日(水)

午前10時30分～午後5時30分(最終日は午後5時まで)

会場：NHK 放送センター(東京・渋谷)正面玄関ロビー

入場：無料(事前予約なしでどなたでもお越しいただけます)

ホームページ：<https://www.nhk.or.jp/techexpo/2024/>

5月27日(月)から29日(水)までの3日間は、東京都渋谷区のNHK放送センターにて「NHK Tech EXPO 2024」を開催。「プロ野球テレビ観戦用音声ガイドアプリ」や「生字幕表示位置自動調整システム」など、番組制作や緊急報道、電波確保など全国の放送現場ならではのノウハウやアイデアから生まれた新たなシステム、サービスなどを紹介する。

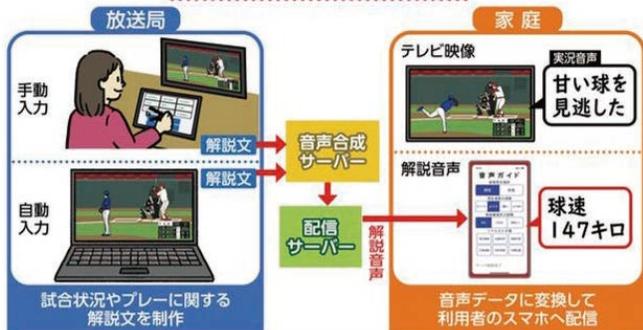
今回は、「Tech を体験・体感!」「よりよいコンテンツを!よりよい制作環境で!」「必要な情報を確実にお届け!」をテーマに、全国のNHKの放送現場ならではのノウハウやアイデアを生かして開発した最新の機器や、放送・デジタル・サービスを支えるTech(テック)を生かした取り組みを、全22項目の展示で紹介。

■ 見どころ

Tech を体験・体感!

●「プロ野球テレビ観戦用音声ガイドアプリ」や「ワンワンありがとう動画生成システム」など、AIやARなどの最新技術を用いて更に便利になったサービスを展示します。

解説音声制作・配信システム



プロ野球テレビ観戦用音声ガイドアプリの概要

よりよいコンテンツを!よりよい制作環境で!

●「大迫力! H3 ロケット打ち上げ映像」の展示では、人が近づくことのできない接近した場所から撮影した迫力ある映像を紹介するとともに、JAXA ※が中心となって進めている



H3 ロケット打ち上げ撮影の様子

※国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

火星衛星探査計画の探査機に搭載予定のカメラの紹介も予定しています。このほかにも、より見やすい字幕画面を実現する「生字幕表示位置自動調整システム」や、クラウドやAIを活用したコンテンツ制作事例を紹介する。

必要な情報を確実にお届け!

●「和歌山津波関連情報表示地図アプリ」や「放送局リモート監視サポートシステム」など、放送の業務をサポートし、正確な情報を確実にお届けするための取り組みを紹介する。



和歌山津波関連情報表示地図アプリ

■ 展示項目一覧 (予定)

Tech を体験・体感! よりよいコンテンツを!よりよい制作環境で! 必要な情報を確実にお届け!

No. 展示名称 担当部局

- 1 プロ野球テレビ観戦用音声ガイドアプリ 広島放送局
- 2 ワンワンありがとう動画生成システム メディア総局 メディアイノベーションセンター
- 3 バーチャルパペット 一般財団法人 NHK 財団
- 4 拡張型 8K プレイヤー 株式会社 NHK テクノロジーズ
- 5 ラグビー W 杯における 4K 伝送システムへの取り組み メディア技術局 システムテクノロジーセンター
- 6 クラウドを活用した次世代番組制作 メディア技術局 コンテンツテクノロジーセンター
- 7 生字幕表示位置自動調整システム 技術局 システムソリューションセンター
- 8 地域局番組でもびったり字幕 札幌放送局
- 9 AR を用いた番組「体験」型コンテンツ メディア総局 メディアイノベーションセンター
- 10 大迫力! H3 ロケット打ち上げ映像※ メディア技術局 コンテンツテクノロジーセンター
- 11 植物タイムラプスシステム メディア技術局 コンテンツテクノロジーセンター
- 12 4 カメ分の映像を低遅延同期伝送 簡易中継システム「街かどカム」株式会社 NHK テクノロジーズ
- 13 クラウドを用いたタリーシステム /920MHz 帯無線タリー&カメラ制御システム 株式会社 NHK テクノロジーズ
- 14 テロップ制作業務支援ツール テロポン メディア総局 メディアイノベーションセンター
- 15 AI お化粧マイク 技術局 システムソリューションセンター
- 16 のど自慢予選会 カメラカット割り検討用システム 秋田放送局
- 17 可搬リモートカメラ収録システム 大阪放送局
- 18 天気マークスーパースタ装置を活用した熱中症警戒アラートの送出 メディア技術局 システムテクノロジーセンター
- 19 和歌山津波関連情報表示地図アプリ 和歌山放送局
- 20 障害サポートシステム メディア技術局 システムテクノロジーセンター
- 21 「放送局リモート」監視サポートシステム 仙台放送局
- 22 AI を活用した脆弱性診断システム 株式会社 NHK テクノロジーズ

※火星衛星探査計画 (MMX) に関連した展示も実施予定です。

NHK 放送技術研究所（技研）は、最新の研究開発成果を一般に公開する「技研公開 2024」を、5月30日（木）から6月2日（日）まで開催します。

技研公開 2024「技術で拓ひらくメディアのシンカ」

開催期間：5月30日（木）～6月2日（日）午前10:00～午後5:00

会場：NHK 放送技術研究所（東京都世田谷区砧 1-10-11）

入場：自由（事前予約なしでどなたでもお越しいただけます）

ホームページ：https://www.nhk.or.jp/strl/open2024/

今回は「技術で拓ひらくメディアのシンカ」をテーマに、技研が目指す『Future Vision 2030-2040（2024年度版）』の3つの重点領域や、直近の課題解決に貢献しメディアを支える研究成果などを29項目の展示で紹介する。

放送メディアの「真価」を高める、技術の「深化」と「進化」をぜひご覧ください。

■ 見どころ

- 研究の進捗や放送メディアを取り巻く環境の変化、デジタル技術の急速な発展などを考慮して改訂した「Future Vision 2030-2040」2024年度版を紹介する。

- 映像の説明テキスト生成技術

- 文字認識、顔認識など複数の要素技術を組み合わせて映像の内容を説明するテキスト（メタデータ）をAIで自動生成する技術を紹介いたします。

- 取材映像の検索や番組解説文の生成など番組制作の効率化に活用します。

- AR グラス型ニュース提示システム

- AR グラス越しに見えるユーザー周辺の空間に、多くのニュースを一覧性高く配置して、記事を探索・閲覧するシステムを体験していただけます。

- 関連性の高いニュース同士が近くに配置され、複数のユーザーに同じ場所で同じ情報が見えるように提示される様子を、ご覧いただけます。

- 体験展示：体感！できるかな 2030

懐かしの造形教育番組「できるかな」をモチーフに、イマーシブメディアが実現する未来の番組視聴を体験していただけます。

イマーシブメディア～その場にいるような世界を体感～

技研公開 2024 の開催について

メディアを支える～メディアの直近の課題解決に貢献～

Future Vision 2030-2040（2024年度版）

- コンテンツの信頼性を高める来歴情報提示技術

- 偽情報・誤情報の対策として、コンテンツの出どころや制作過程を表す「来歴情報」を記録・提示する技術を紹介いたします。

- コンテンツの出どころや認証に関する国際標準化団体 C2PA* が策定する技術仕様に準拠した動画視聴プレーヤーを展示します。

- 自由に変形できるディフォーマブルディスプレイ

- ゴム基板上に伸縮配線とLEDを形成したディフォーマブル（変形可能）ディスプレイを展示します。

- 昨年は単色のディスプレイを展示しましたが、今回はカラー化し、鮮やかになったディスプレイをお手に取ってご覧ください。

技研講堂では、2024年度版として改訂した『Future Vision 2030-2040』に関する基調講演と、3つの重点領域の研究紹介を5月30日（木）・31日（金）で上映するほか、6月1日（土）・2日（日）にはファミリー向けのイベントも開催します。

展示項目や基調講演などの詳細については別紙およびホームページ

をご覧ください。

ユニバーサルサービス～いつでも・どこでも・誰にでも～

フロンティアサイエンス～基礎研究により未来のメディアを創造～

* C2PA：Coalition for Content Provenance and Authenticity

● 展示項目

エントランス展示『Future Vision 2030-2040』

E1 メディアを支える（AIへの取り組み）

E2 イマーシブメディア

E3 ユニバーサルサービス

E4 フロンティアサイエンス

研究成果展示

1 AR グラス型ニュース提示システム 短期

2 ニュースを対象とした手話 CG 生成技術 短期

3 放送とネットを統合したコンテンツ提供基盤 短期

4 データで広がるコンテンツ流通 短期

5 コンテンツの信頼性を高める来歴情報提示技術 短期

6 次世代地上放送の伝送技術 短期

7 放送番組中継用回線の伝送技術 短期

8 映像符号化方式と連携した衛星伝送技術 短期

9 ボリュメトリック映像制作支援技術 短期

10 イマーシブメディア用音響制作ツール 短期

11 8K 映像切り出し制作システム 実用段階

12 映像の説明テキスト生成技術 短期

13 音楽の可視化による新しいコンテンツ表現 短期

14 周辺視野の知覚感度特性 短期

15 光源アレーを用いた3次元ディスプレイ 中長期

16 自由に変形できるディフォーマブルディスプレイ 中長期

17 薄くて曲げられるシリコン撮像デバイス 中長期

18 自然光でのホログラフィー撮影技術 中長期

体験型展示

T1 体感！できるかな 2030

T2 体感！自由視点イマーシブライブ 関連展示

N1 もっと身近に4K8K/NHK プラス 視聴体感コーナー

N2 NHK 技術の活用と実用化開発（(一財) NHK 財団）

N3 NHK 技研オープンイノベーション

N4 NHK の環境経営

N5 放送技術の1世紀と半世紀（放送博物館）

実用段階：実用段階にある技術やその改善に向けた研究

短期：5年以内に技術的に実用段階となる研究

中長期：2030-2040年ごろの技術確立を目指した研究

基調講演・研究紹介 5月30日（木）・5月31日（金）の2日間、

事前に収録した講演を上映します。

基調講演：Future Vision 2030-2040（2024年度版）

講演者：今井 亨 所長

概要：技研が目指す未来ビジョンおよびその実現に必要な研究開発の重点領域を紹介

研究紹介：その場にいるような世界を体感するイマーシブメディア

講演者：久富 健介 シニア・リード（空間表現メディア研究部）

概要：没入感あふれるメディア体験を提供できるイマーシブメディアの研究開発概要を紹介

研究紹介：あらゆる場面に信頼できる情報を届ける Web ベース放送メディア

講演者：松村 欣司 シニア・リード（ネットサービス基盤研究部）

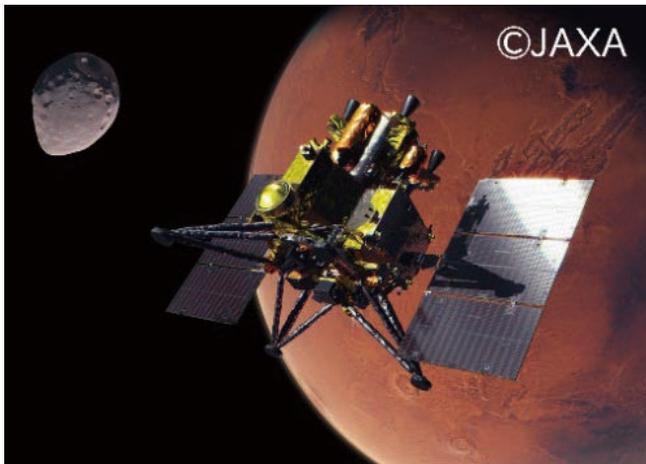
概要：インターネットを活用した新しい放送システムの研究開発概要を紹介

研究紹介：未来のメディアを創造するデバイス技術

講演者：萩原 啓 シニア・リード（新機能デバイス研究部）

概要：広視野映像や3次元映像などの表示・撮像技術を紹介

◆ NHK：火星衛星探査計画（MMX）の探査機に搭載するスーパーハイビジョンカメラが完成



国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）が中心となって進めている火星衛星探査計画（MMX：Martian Moons eXploration）で、NHKは探査機に搭載するスーパーハイビジョンカメラ（4K・8Kカメラ）をJAXAと共同で完成させました。本カメラを用いて、火星と火星の衛星「フォボス」・「ダイモス」の4K・8K撮影に挑み、MMXを鮮明なスーパーハイビジョンで記録・映像化するとともに、放送などのメディアで広くお伝えすることを目指します。

JAXAでは、火星の衛星の起源や火星圏の進化の過程を明らかにすることを目的に、2026年度の打ち上げを目指して探査機の開発を進めています。MMXでは、火星と火星の衛星「フォボス」・「ダイモス」の科学観測を行うとともに、フォボスに探査機を着陸させ、その表面から表層物質のサンプルを採取し、地球に持ち帰ることを目標としています。

NHKは、史上初のMMXの挑戦を超高精細なスーパーハイビジョンで記録・映像化するとともに、放送などのメディアで広く視聴者の皆様にお伝えするため、2020年にJAXAと共同開発協定を締結し、宇宙空間で撮影が可能なスーパーハイビジョンカメラの開発を進めてきました。

今回完成したスーパーハイビジョンカメラは、探査機の進行方向を撮影するための8Kカメラと、探査機の進行方向に対して側面方向を撮影するための4Kカメラの、合わせて2台の超高精細カメラで構成されています(写真1・2・図1)。ロケット打ち上げ時の振動・衝撃や宇宙空間での過酷な環境に耐える設計となっており、JAXAの規定に基づく耐環境試験をクリアしています。火星と地球との間の通信速度の制約から、データ量の大きな4K・8K映像をそのまま送ることは難しいため、撮影間隔は10秒に1回とし、連続的に撮影した静止画を地球へ伝送した後に滑らかな映像に変換する方式としました(表1)。

今後、完成したスーパーハイビジョンカメラは探査機に取り付けられ、探査機とのシステム結合試験を行います。2026年度の探査機打ち上げに向け、引き続き準備を進めてまいります。

なお、5月27日（月）～29日（水）にNHK放送センターで開催される「NHK Tech EXPO 2024」では、探査機に搭載するスーパーハイビジョンカメラと同じ形状・構造を持ち、実際の耐環境試験にも使用された試作機を展示します。火星探査での活躍が期待されるスーパーハイビジョンカメラを、是非ご覧ください。

NHK Tech EXPO ホームページ：

<https://www.nhk.or.jp/techexpo/2024/>

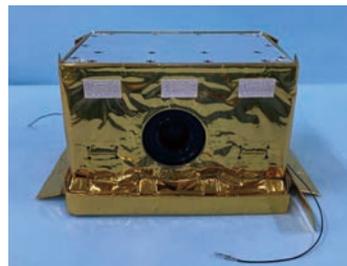


写真1. 8Kカメラ

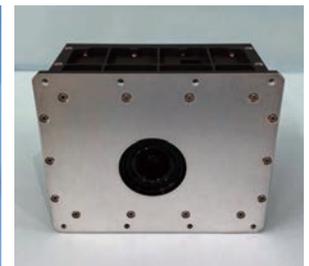


写真2. 4Kカメラ



図1 スーパーハイビジョンカメラの搭載位置

表1 完成したスーパーハイビジョンカメラの諸元

| 項目 | 8Kカメラ | 4Kカメラ |
|------------|------------------------|---------------------|
| 画素数（水平×垂直） | 7,680 × 4,320 画素 | 3,840 × 2,160 画素 |
| 撮影画角（水平） | 65度 | |
| 撮影間隔 | 10秒間隔 | |
| 画像データ形式 | JPEG | |
| 画像データサイズ | 9MB/枚程度 | 4MB/枚程度 |
| 探査機搭載位置 | 探査機の進行方向 | 探査機の側面方向 |
| 主な撮影目標 | 火星・火星衛星の高精細映像、フォボスへの着陸 | フォボスへの着陸、着陸後のフォボス表面 |

【問い合わせ】 広報局（03-5455-2458）

NHKは、国連とメディアが共同で実施するキャンペーン「1.5℃の約束 - いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」に参加しています。

NHKの最新のプレスリリース 経営 / コンテンツ・サービス

<https://www.nhk.or.jp/info/>

※「どーも、NHK」X (@nhk_domo_nhk) でも情報発信しています